

# 事業所自己評価シート

令和3年度(2021年)

\*保護者(13/21 回収率 62%)・職員(4/4 回収率 100%)

## 職員による自己評価

### A環境面

開所時からあったボールプールをなくしたことでマットのスペースが広がったことでスペースをとることができるようになった。

### B児童への支援内容

支援期間が長くなってきたことで、利用者個々の状態を把握できるようになり、支援に生かすことができ始めている。

### C関係機関との連携

コロナ渦のため、モニタリングや関係者会議の開催が難しい状況ではあるが電話連絡などを通して、連携を図ることができている。

### D保護者への説明責任・信頼関係

コロナ渦のため、面談の実施が難しいが、送迎時などを活用しコミュニケーションを図るようにしている。

### E非常対応

避難訓練は学校休業日期間中に全曜日を実施。活動予定表にも明記している。

感染対策に関しては、1介助1消毒を基本とするとともに、施設内の感染対策委員会も実施しながら感染対策に取り組んでいる。

## 保護者による評価

### A環境面

環境、体制整備共にほぼ「はい」の評価をいただいている。

### B児童への支援内容

支援に関しては全ての方から「はい」の評価を頂いている。

### C事業所からの情報発信

当日の様子は連絡帳や送迎時のコミュニケーションをとおして取り組み。

また毎月のホームページにて写真を掲載し、3か月ごとにご家族に写真を配布している。

非常時などに関してはまちこみメールを導入し、ご家族に一斉に情報発信をとれる体制をとっている。

### D保護者への説明責任、信頼関係

評価はいただいているが、コロナ渦の影響から、面談や家族の集まりの会の開催が難しくなっており、皆で集まったの情報交換ができなくなっている。

### E非常対応

あまり評価をいただいていない。



## 事業所内での分析

### 【共通点】

- ・コロナ渦のため、面談、家族の集まりが開催できていないが、事業所、家族ともに状況を見て開催してほしいという思いを持っていることが分かった。
- ・日々の支援に関して、ある一定の評価をいただいていることが分かった。今後もご家族との連携を図っていくとともに、個々の成長に合わせながら、様々な活動を通していろいろな経験を積んでいけるようにしていく必要性を感じた。

### 【相違点】

- ・避難訓練に関して、ご家族への周知も込めて、活動予定表にも明記してきたが、あまり周知されていないことが分かった

### 分析・検討してみて…

#### 事業所の強み

写真を大切にし、ご家族へ配布するとともに、ホームページにも掲示し、また事業所内にも掲載することで、利用者の成長や、様々な表情を見ることができている。  
様々な活動を通して、いろいろな経験を積むことができる。

#### 事業所の改善点

災害面に関しては、評価をいただいていないため、改善が必要である。今年度は活動予定表に避難訓練の予定を明記することで情報発信したが、まだ不十分であったため、連絡帳にも避難訓練中の様子を明記するなどの方法も考えていきたい。

### 事業所の改善への取り組み

- ・感染対策など日々様々なことに制限が生まれる中ではあるが、その中でも職員で創意工夫をしながら、安心安全な中で楽しめる空間、様々な経験を通して成長できる場を作っていけるようにしたい。また状況を見ながら少しでも制限を解除できるようにしていきたい。
- ・災害面に関しては、今まで通り取り組んでいく中で、情報発信の方法について考えていきたい。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

まだまだ制限がある中での運営であり、今後どのようなようになっていくのか不安なことも多いが、楽しい場所づくりという思いを大切にしながら、日々の運営にあたっていきたい。

事業所名 社会福祉法人 十愛療育会 たっちいずみの

担当者 小林 勇介